

5 特別の教科「村民学」

1 「村民学」全体構想

本校では、主に総合的な学習の時間（1、2年生においては生活科の時間の一部）を使って、「村民学」を特別の教科として独自に位置付けている。本物に触れるリアルな体験活動を中心に据えた探究的な学びを通して、ふるさと白川郷について「白川村村民憲章」に迫る学びや社会の中にある課題を自ら発見し、自己の発想や工夫で仲間とともに課題解決に挑戦する学びを展開している。

人口減少や高齢化問題、オーバーツーリズムの問題など、村には多くの課題があるが、村の自然や伝統文化等が大切に守られ、継承されていることを直接的に学ぶことは、白川村の未来の担い手づくりにもつながる。また、社会の中にある困り感を解決するアイデアを考え、実践に結ぶ営みは、未来社会の創り手となる資質・能力の育成につながる。

令和7年度 白川郷学園「村民学」で育成をめざす資質・能力

「村民学」で育成をめざす資質・能力

郷土を愛する心をもって自ら未来を切り拓き、新たな価値を生み出していく力
～「白川村の担い手」から「未来社会の創り手」へ～

本物に触れる豊かな体験を通して、白川村、村民の中に潜んでいる能力を体得し、表現していく力

社会の中にある「困り感」から課題を見だし、それらを解決するために仲間と協働して挑戦したり失敗をしながらやり抜いたりすることを通して、社会の一員として新たな価値を創り出していく力

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

ふるさと学習 (「白川村」と「白川郷」)
・体験を通して気づき、学ぶ
・ふるさと白川郷についての知識、技能を学ぶ
・ふるさと白川郷の魅力を伝える力、表現力を学ぶ

【図表2】「村民学」全体構想

【図表1】「村民学」で育成をめざす資質・能力

そこで、「村民学」全体で育成をめざす資質・能力を「郷土を愛する心をもって自ら未来を切り拓き、新たな価値を生み出していく力」とし、ふるさと白川郷の魅力を徹底的に学ぶ「ふるさと学習」と、本年度より新たに、起業家的なマインド（アントレプレナーシップ）を学ぶ「ひとりだち学習」の両輪で学習活動を展開している。

本年度、新たな切り口で「村民学」を展開するにあたり、各学年の学習で育成をめざす資質・能力を明らかにする【図表1及び別紙4】とともに、各学年の学習内容を精選し、それらを系統的に整理した【図表2及び別紙5】。

(1) ふるさと学習

ふるさと学習は開校以前からも計画的に進められており、「白川村村民憲章」に迫るよう、各学年の学びが精選され、系統化されてきた。各学年2名のコーディネータ（村民講師）を配置し、白川村全体を「教室」、白川村の「ひと・もの・こと」を「先生」としてリアルな探究活動を通して、村で活躍する様々な人の生き方や考え方に触れる。このようにして白川村の魅力を体得する学びを通して、自分の生き方を見つめ、将来、大人になっても白川村を心の拠り所として、グローバルな視野で活躍できる児童生徒を育成する。将来、大人になって村に戻って来る、戻って来ないは別として、生き方の根底にあるものが白川村で受けた愛情や学び得た財産であり、将来「ふるさととは白川村です!」と堂々と語ることができる子どもに育てたい、たとえ離れた場所で生活していたとしても、何らかの形で村を思い、貢献できる子どもに育てたい、そう願って実践を深めている。

本年度、「村民学」に「ひとりだち学習」を加えたことや、7年生から9年生までの学びを「ひとりだち学習」一本にした（「ふるさと学習」は実施しない。）ことから、この「ふるさと学習」の内容を令和6年度末にさらに精選した。1年生から6年生まで、各学年の

指導計画を作成し【図表3及び別紙6～11】、活動のつながりや生み出す子どもの意識を1枚のシートにまとめ、教職員で共有する【図表4】。

子どもたちは学びの足跡を紙媒体、デジタル媒体でポートフォリオにより蓄積し、次学年以降の学びに活用できるようにしている。例えば、「ふるさと学習」の出口にあたる6年生には「白川村観光大使」の学習を位置付けているが、来訪者に魅力を伝える際、過去の学びで得た思い（感じたこと、考えたこと）をもとにガイドを考える。「活動あって学びなし」とならないよう、育成をめざす資質・能力を共有し、実践を進めている。

令和7年度 第4学年「村民学」年間指導計画			白川村学級
全体共通テーマ 自ら未来を切り拓き、新たな価値を生み出していく力 ～「白川村の担い手」から「未来社会の創作者」へ～ 育成を目指す資質・能力 【ふるさと学習】 本物に触れる豊かな体験を通して、白川村、村民の中に根付いている郷土を体得し、表現していく力 【ひとりだち学習】 社会の中心にある「困り感」から課題を見出し、それらを解決するための仲間と協働して挑戦したり失敗をしながらやり抜いたりすることを通して、社会の一員として新たな価値を創りだしていく力			4年生の学び ふるさと学習をめざす子どもの姿 ○継承されている会家造りの技や知識、職人や苦労などを知ることを通して、これまで継承されてきた理由や魅力について考えることができる ○見たり聞いたりしたことをもとに、実際に会家造り体験をすることができ（はこまき体験） ひとりだち学習をめざす子どもの姿 ○事業者の「困り感」を受け、課題解決に向けた商品アイデアを仲間と共に考え、事業者にプレゼンテーションすることができ ＊「実際に社会の困り事を解決する実践」
年間指導計画 ふるさと学習 ○オリエンテーション(1) これまでの村民学の学びを振り返り、テーマやねらいから年間の活動の進め方について交流する。 ・会家造りについて知っていることについて交流する。 ・会家造りについて、知りたいことや疑問に思っていることを交流し、見学に向けて計画・準備をする。(1) ○会家造り人になろう。(6) 会家造りを見学する活動を通して、会家造りには様々な知識や技が継承されていることに気づき、学んだことをまとめることができる。 ・旧道山家住宅にて講師の方から会家造りについて学ぶ。(3) ・材料、家業きき板、養生、煙草、結束、会家づくりの内部の工夫、継承の理由、喜び・苦労など、建物のつくりの秘密をクイズにまとめる。(3) ○家業きき板作業を見よう(4) 会家の家業きき板作業を見学する活動を通して、継承されている知識や技への関心を深め、職人の方の思いや苦労に気づき、学んだことをまとめることができる。 ・灰町にて、会家の家業きき板作業を見学する。(2) ・見学したことを、ワークシートにまとめる。(2) ○屋根組み体験しよう(7) 屋根組み体験を通して、受け継がれてきた知識や技のよさを実感し、未来につなぐために自分ができることなど学んだことをまとめることができる。 ・はこまき練習(3) ・屋根組み体験(3) ・体験したことをまとめる。(1) ○ふるさと学習をまとめよう(2) 会家造りについて、これまで知識や技が受け継がれてきた理由やその魅力、未来につなぐために自分ができることなど学んだことをまとめることができる。 ・見学や体験したことを新聞にまとめる。 ・おもしろいところをまとめる。			ひとりだち学(アンクル) 令和7年度 月 日() 講師:松本さん 場所:旧道山家住宅 クイズシートを作成することで、旧道山家を訪れる人に学んだことを発信することができるようにする。 令和7年度 月 日() 講師:松本さん 場所:灰町 事業者の「困り感」(価値ある見学施設ではあるが、床板敷に伸び悩んでいる。灰町の会家造りではなく、旧道山家住宅に立ち寄ってもらえるようにするために、ここではかきえないオリジナル商品を販売したい。そのアイデアが思い浮かばないため、協力してほしい) 令和7年度 月 日() 講師: 場所:学級 ○「旧道山家住宅 オリジナル商品プロジェクト」(15) 事業者の「困り感」から目的意識をもち、市場調査や調査結果の分析をもとに、仲間と協力してオリジナル商品のアイデアをつくり、提案することができる。 ・事業者の「困り感」について相談を受け、プロジェクトの目的を明らかにする。(1) ・販売で購入したことがあるお土産品について意見を出し合い、誰がどんなものを買うのか、市場調査の準備をする。(1) ・販売店で市場調査をする。(2) ・調査したことを整理・分析し、買い手のターゲットを決め、オリジナル商品の方向性をチームごとに話し合う。(4) ・オリジナル商品のヒントを得るために、旧道山家住宅の見学を行う。(2) ・共にチームでオリジナル商品のアイデアを練り上げ、より具体化していく(試作品、設計図、レシビタビ) (3) ・オリジナル商品のアイデアを事業者にプレゼンテーションし、評価を得る。(2)
令和7年度 月 日() プレゼン参加者: 場所:			

【図表3】各学年の指導計画（4年生）

ふるさと学習		ひとりだち学習	
ふるさと学習 令和7年度 月 日() プレゼン参加者: 場所:		ひとりだち学習 令和7年度 月 日() プレゼン参加者: 場所:	
ふるさと学習 令和7年度 月 日() プレゼン参加者: 場所:		ひとりだち学習 令和7年度 月 日() プレゼン参加者: 場所:	
ふるさと学習 令和7年度 月 日() プレゼン参加者: 場所:		ひとりだち学習 令和7年度 月 日() プレゼン参加者: 場所:	
ふるさと学習 令和7年度 月 日() プレゼン参加者: 場所:		ひとりだち学習 令和7年度 月 日() プレゼン参加者: 場所:	

【図表4】各学年の活動のつながりと生み出す子どもの意識

(2) ひとりだち学習

本年度より新たに始めたのが「ひとりだち学習」であり、本校版のアントレプレナーシップ教育のことである。変化の激しい未来社会の中で、子ども一人ひとりが力強く生き抜いていくためには、志や目標をもって失敗を恐れず挑戦する「チャレンジ精神」や、現状に満足せず、変化を求めて新たなものや新しい価値を生み出す力（創造力）、冒険心や探究心といった「起業家精神」を育むことが大切である。また、情報を収集したり分析したり判断したりする情報活用能力、実行力やリーダーシップ、コミュニケーション力等といった「起業家的資質・能力」を育むことも大切である。そうすることが、白川村や村民、広くはこれから関わるであろう多くの人たちの幸せを願って貢献する姿につながる。そう願って、「ひとりだち学習」で育成をめざす資質・能力を「社会の中にある『困り感』から課題を見出し、それらを解決するために仲間と協働して挑戦したり失敗を生かしながらやり抜いたりすることを通して、社会の一員として新たな価値を創り出していく力」と設定した。その資質・能力に迫るために、各学年で育成をめざす資質・能力を明確にした【図表1】。

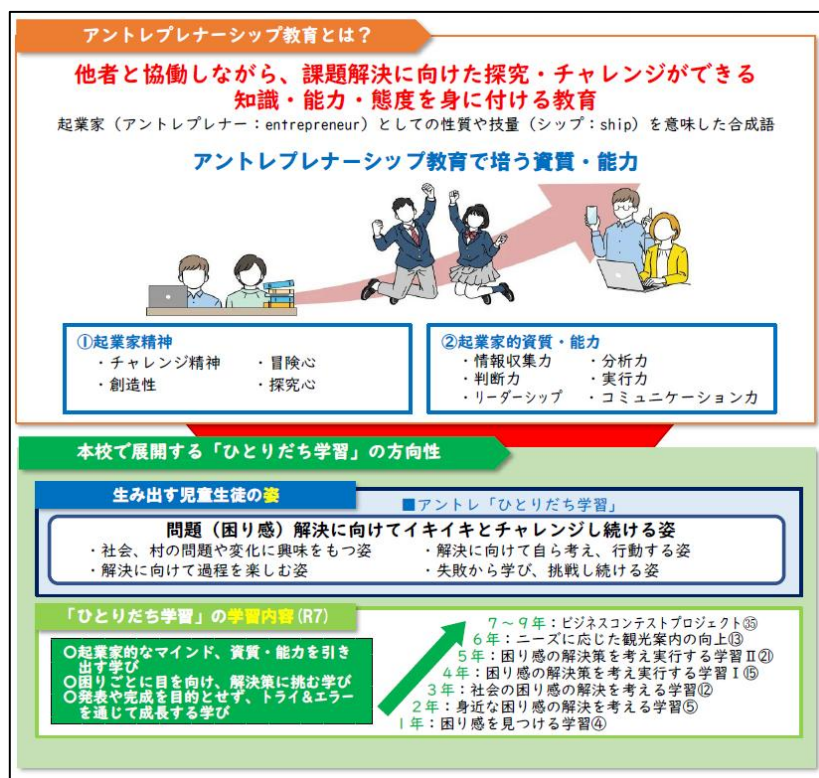
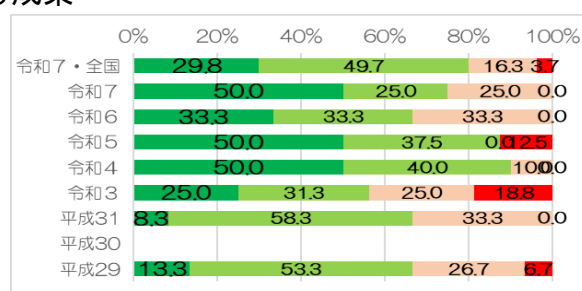
本年度、開始にあたり夏季休業中に十分な職員研修を行った上で、7年生から9年生では9月から「ひとりだち学習」を開始した。社会の中にある困り感から課題を見だし、困り感を解決するためのビジネスプラン、アイデアを仲間やメンター（外部講師）と練り上げ、12月のビジネスコンテストに結ぶ。こうした学びを通して、持続可能な社会づくりや自他を幸せにすることのよさに気付くことができるようにしていく。

3 全国学力・学習状況調査の質問紙調査に見る成果

本年度9年生の回答結果を示す。

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

（グラフ最上部から：全国回答状況→令和7年度
本校9年生→令和6年度・・・→開校時）



【図表5】「ひとりだち学習」の捉え



【図表6】メンターから学ぶ生徒